

平成 23 年度障害者スポーツ文化センター横浜ラポール事業報告

市内唯一の障害者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者の様々な状況に即した事業を行いました。運営の基本理念を「リハビリテーションの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取り組み」と定め、リハビリテーション・スポーツを核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源（横浜市体育協会、各種競技団体等）との連携に基づいた市域での事業を推進しました。

今年度の開館日数は 346 日（昨年度 343 日）で、施設利用者数は延べ 434,873 人（昨年度延べ 423,531 人）でした。

なお、今年度の重点的な取組については、それぞれ以下のように進めました。

(1) アットホームで温かみのある施設運営

「七夕」「クリスマス」「節分」等の実施によって、温かみのある施設運営を心がけると共に、おもちゃ図書館の運営方法の一部変更や点字ブロックの増設等を行いました。

(2) 地域支援事業の拡充

スポーツ・文化・聴覚障害者情報提供施設のそれぞれで地域支援事業の拡大を図り、過去最多となる 314 回の実施となり、7,000 名以上の方が参加しました。

(3) サービス向上プログラムの継続実施

試行的な実施の「日曜日の利用時間延長（プール団体）」「平日夜間（月曜日～木曜日）におけるボウリング投げ放題キャンペーン」については、年間の効果検証を試みましたが、震災後の節電対応やプール大型改修工事等の影響で継続課題となりました。

(4) 開館 20 周年事業の準備

開館 20 周年の記念事業について、プロジェクトチームを設けて準備を進めました。主な記念事業を「記念式典の開催」「記念誌の発行」「開館 20 周年記念ラポールの祭典の開催」とし、その他に冠事業をいくつか行う予定です。

1 施設運営事業

障害者等のグループ（団体）または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、各種のスポーツ・文化施設の貸出を行いました。

また、利用促進策として、区内企業等へのダイレクトメールの発送を試みしました。

広報については、広報紙やインターネット等を通して、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。

※施設の利用状況については、後述「6 その他 (5)」参照

今年度の重点的な取組は、それぞれ以下のように進めました。

2 スポーツ振興事業

(1) 運営方針

初心者に重点を置く「スポーツ人口の拡大」、スポーツを通じた障害者の「自立支援」及びラポールで培ったノウハウの「地域還元」に基づくスポーツ環境の向上をコンセプトに事業を実施しました。

具体的には、

- ア リハビリテーション・スポーツを核とした個別指導や各種教室の開催
- イ 障害者のスポーツを支える指導者やボランティアなどの人材育成の強化
- ウ 各種地域資源との連携強化によるスポーツ環境の拡大等を中心に実施しました。

特に今年度は、中級者向け卓球教室の見直しや高次脳機能障害者に対する支援プログラムの充実、ハマピック事業の位置づけの見直しによるプログラムの整備、開港 150 周年事業の成果を着実に具体化する継続的な事業展開、地域支援の推進に向けた連携システム構築の試みを重点的な取組として進めました。

(2) 事業内容

ア スポーツ初期相談

新たにラポールを利用する人に対し、各種教室や施設の紹介等の相談を行いました。また、必要に応じた主治医や担当セラピストへの照会などを通して、利用者が適切なプログラムへ速やかに参加できるよう、第一次のスクリーニング機能を果たしました。

イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツをラポールにおけるスポーツ指導の中核と位置づけ、様々な障害者への指導を行いました。

リハセンターとの連携により、重度の障害者に対するプログラムやスポーツ用具等の開発を進め、対象者の拡大を図りました。

また、日常的にスポーツ相談・健康相談・個別指導等を実施し、特に医療的な配慮が必要と考えられた対象者に、リハセンター医師による医事相談を行いました。リハビリテーション・スポーツ教室として、成人片麻痺者、肢体不自由児、知的障害児、高次脳機能障害者の各クラスを開催しました。

<リハビリテーション・スポーツの実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	511回	511人
リハ・スポーツ教室（成人）	成人片麻痺者を対象とする教室	30回	174人
リハ・スポーツ教室（学齢）	学齢発達障害児を対象とする教室	15回	66人
リハ・スポーツ教室（高次脳）	高次脳機能障害者を対象とする教室 やフォローアップ	58回	1,414人
リハ・スポーツ教室 （フォローアップ）	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	10回	73人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	596回	596人
学齢障害児支援	学齢障害児のスポーツ体験 ¹⁾	28回	189人
旅リハ教室	旅リハ参加者に向けた教室 ²⁾	7回	118人

体力診断（体力測定）	リハ・スポ教室（成人）の参加者を主な対象とする体力測定	2回	142人
合 計（昨年度） 3,283人（3,719人）			

- 1) 体験したスポーツ種目は、知的障害児のフライングディスク、肢体不自由児の車いすバスケットボール、陸上及び卓球です。
- 2) 「旅リハ」の沖縄ツアー参加者に対し、体力面の評価や旅行にあたっての注意点等を説明すると共に、羽田空港へのアクセスを実地で確認するプログラムを実施しました。

ウ スポーツ・レクリエーション

障害者がスポーツ・レクリエーション活動に、“いつでも”“どこでも”自由に参加できるように、障害者にとって使いやすいスポーツ施設の運営を行いました。

また、身近な施設においてもスポーツ・レクリエーション活動ができるような環境づくりを推進しました。

スポーツ教室では、リハビリテーション・スポーツとの有機的な連携のもと、生涯スポーツ活動の定着に向けた指導を行いました。また、上級者向けのプログラムを実施し、全国障害者スポーツ大会の予選を兼ねるハマピック競技大会の充実を図りました。

<スポーツ・レクリエーション教室の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室（初心者）	卓球の初心者を対象とする教室	23回	186人
卓球教室（初級者）	卓球の初級者を対象とする教室	23回	175人
卓球教室（フォローアップ）	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	7回	50人
卓球教室（中級者）	卓球の中級者を対象とする教室	25回	608人
水泳教室（上級者）	水泳の上級者を対象とする教室	20回	490人
水泳教室（はじめてプール）	水泳の初心者を対象とする教室	15回	65人
水泳教室（らくらくクロール）	水泳の初級者で片麻痺以外の方を対象とする教室	32回	1,165人
水泳教室（選手クラス）	水泳の競技選手を対象とする教室	13回	317人
チャレンジ背泳ぎクラス	背泳ぎの習得を目指すクラス	10回	89人
チャレンジバタフライクラス	バタフライの習得を目指すクラス	5回	55人
ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室	29回	427人
横浜F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的障害者のサッカー教室	36回	1,432人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	8回	100人
合 計（昨年度） 5,159人（5,548人）			

<スポーツ・レクリエーションの時間の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
グラウンドゴルフ広場	グラウンドゴルフを楽しむ時間	95回	1,103人
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	7回	147人
ターゲットスポーツの時間	ビームライフルやダーツ、吹き矢等のスポーツを楽しむ時間	13回	41人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボールやターゲットボッチャ等のスポーツを楽しむ時間	47回	1,357人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	23回	732人
ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	21回	207人
合 計 (昨年度)		3,587人 (3,712人)	

エ スポーツ大会・交流イベント

障害者のスポーツの普及振興及び競技力向上を目的に「ハマピック」を行いました。「ハマピック」の結果に基づいて全国障害者スポーツ大会への派遣選手を選考し、10月に山口県で行われた本大会へ選手を派遣しました。なお、代表となった選手には本大会までの間、強化練習を実施し、競技力の向上を図りました。

知的障害者のサッカーの普及を図るため、横浜F・マリノスとの共催事業としてサッカー教室を開催しました。

スポーツフェスタとして「水泳の日」「ボッチャの日」「ボウリングの日」「バスケットボールの日」「サッカーの日」を開催し、健常者を含めた各種目の愛好者間の交流を進めました。また、競技力の向上を目的に「オレンジリーグ（卓球）」「ボッチャリーグ」「フライングディスク記録会」を実施しました。さらに「ラポールの祭典」「障害者スポーツ体験」等の開催を通じて、市民が広く障害者のスポーツを理解できる機会の促進を図りました。

<第16回ハマピックの実績>

プログラム ¹⁾	内 容 ²⁾	回数	参加者数
水泳	身体障害及び知的障害を対象とした水泳競技(4月24日)	1回	269人
卓球	身体障害及び知的障害を対象とした卓球競技(4月24日)	1回	42人
フライングディスク	身体障害及び知的障害を対象としたフライングディスク競技(4月29日)	1回	96人
陸上	身体障害及び知的障害を対象とした陸上競技(5月8日、三ツ沢公園陸上競技場)	1回	425人
サウンドテーブルテニス	視覚障害を対象としたサウンドテーブルテニス競技(4月17日)	1回	15人

アーチェリー	身体障害を対象としたアーチェリー競技 (4月17日)	1回	2人
ボウリング	知的障害を対象としたボウリング競技 (4月17日)	1回	55人
バスケットボール	知的障害を対象としたバスケットボール競技 (11月26日)	1回	151人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール競技 (11月13日、岸根公園野球場)	1回	34人
バレーボール	知的障害を対象としたバレーボール競技 (11月27日)	1回	156人
サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技 (12月11日、しんよこフットボールパーク)	1回	156人
合 計 (昨年度)		1,401人 (1,400人) ³⁾	

- 1) プログラム欄のうち、『水泳』『卓球』『フライングディスク』『陸上』『サウンドテーブルテニス』『アーチェリー』『ボウリング』は個人競技、『バスケットボール』『ソフトボール』『バレーボール』『サッカー』は団体競技となります。
- 2) 内容欄で会場の記載のないものは、ラポールのスポーツ施設における実施です。
- 3) 参加者数については、原則としてエントリー時の人数としました。

<スポーツ・フェスタの実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会 (7月3日)	1回	526人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を対象とした記録会 (9月4日、1月22日)	2回	104人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会 (2月19日)	1回	171人
バスケットボールの日 ¹⁾	どなたでも参加が可能なバスケットボールの競技会 (8月7日)	1回	122人
サッカーの日 ¹⁾	どなたでも参加が可能なサッカーの競技会 (3月20日)	1回	62人
合 計 (昨年度)		985人 (752人) ¹⁾	

- 1) 昨年度まで、ハマピックの一部で実施した交流目的のバスケットボールとサッカーを今年度から、スポーツフェスタに変更したため、参加者が増加しています。

<各種リーグ戦や記録会の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球オレンジリーグ ¹⁾	卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的としたリーグ戦	12回	405人
ボッチャリーグ	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	10回	211人

フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	8回	140人
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	6回	150人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	45回	283人
合 計 (昨年度)		1,189人 (1,503人)	

1) 卓球オレンジリーグには、インターリーグ、トップリーグ、サウンドテーブルテニスリーグを含みます。

<各種研修の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則 15 歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会 (4月9日、10月1日)	2回	20人
初級障害者スポーツ指導員養成講座	原則 18 歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者かスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会(1月28日、29日、2月4日、5日)	4回	192人
フォローアップ研修会	横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者か障害者スポーツ指導員の方を対象とする研修会 (6月11日、11月12日)	2回	47人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会 ¹⁾	6回	1,880人
合 計 (昨年度)		2,139人 (3,429人)	

1) ラポールのスポーツ施設で行う『受入型』と、ラポール職員が学校等に出向いて行う『出張型』があり、車いすバスケットボールが特に人気の高い種目です。

<第10回全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成23年10月22日～24日

派遣人数：選手53人・役員37人の合計90人

成 績：金=37個、銀=9個、銅=9個 (大会記録8)

金メダル獲得ランキング：全国第1位 メダル獲得率：全国第11位

オ 地域支援

今年度の地域支援は、全体で308回と過去最多の実施回数となりました (これまでの平均は233回、最多283回)。実施内容は、例年と同様にグラウンドゴルフやボッチャ、ラポールが独自に開発したオリジナルスポーツ等の教室開催に加え、自

主活動グループへの支援が中心ですが、地域におけるラポールの認知が進み、様々な形での依頼が増加している結果といえます。

重点項目となっている地域におけるネットワーク作りでは、瀬谷、金沢、鶴見等で関係機関等との連絡会が設けられるなど、着実な第1歩を踏み出しています。また、旭においても同様の動きがあり、平成24年度早々に関係機関連絡会が開催されることになりました。

<地域支援の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則として地域の障害者を対象としたスポーツ教室	61回	1,160人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取り組みにより、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	72回	1,192人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	5回	144人
介護予防系プログラム	主に高齢者を対象としたプログラム	54回	987人
その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	116回	3,493人
合 計 (昨年度)		6,976人 (5,795人)	

カ 新しい取組

昨年度まで、ハマピックの中で開催していたバスケットボール競技やサッカー競技の交流目的の試合については、今年度からスポーツフェスタの種目に改めて行いました。これは、ハマピックの位置づけを競技大会として明確にしたためです。

これまでのスポーツ事業課の各種事業を整理し、今後の方向性を模索していくため、スポーツ事業課全体での議論を活性化する取組を開始しました。各課長と経験豊富な職員が中心となり、できる限り全職員の意見を反映させる形で進めています。

これまでの結果では、将来実現すべきビジョンを「みんな笑顔」とし、これに向かうキーワードとして「つくろう」「つなげよう」「ひろげよう」を定めました。

3 文化振興事業

「観る・聴く・楽しむ」ための場や、障害者の個々のニーズにあった創作への動機付けを図るための多様な文化的体験・能力開発の場を提供するほか、障害者の生活や文化に関する各種情報を提供することにより、障害者の社会活動・文化活動を支援しました。

(1) 文化企画

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」、ラポールシアターでのコンサート等のほか、気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。

また、様々な文化教室・ワークショップ、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しました。
ア 文化振興事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたっては、
作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

<横浜ラポール芸術市場>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	絵画、写真、書、陶芸など 525 点の力強い作品の展示会。同時に「さをり織り」や書道などのワークショップを体験コーナーとして「あなたも芸術家!？」を併催(10月17日～23日)	1 回	2,142 人
いのち 生命のリズム	障害のある方が参加している太鼓のグループの合同発表会 (10月22日)	1 回	263 人
オータム コンサート	横浜ラポールのワークショップから自主サークルで活動しているグループや地域の障害者団体によるコーラス発表会 (11月3日)	1 回	225 人
ジョイフル フェスタ	障害者によるダンスや落語などの合同発表会 (11月13日)	1 回	356 人
みんな de パソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使っ ての缶バッジ作りや点字名刺作成 パソコン相談会と併催 (11月19日)	1 回	196 人
野 点	横浜ラポールを利用しているグループ「お茶の会」による抹茶のサービス (11月20日)	1 回	96 人
ドリーマーズ ステージ	障害のある方が参加しているグループのコーラスや器楽合奏の合同発表会 (11月27日)	1 回	112 人
ハートフル コンサート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏等の合同発表会 (12月3日)	1 回	120 人
ザ・エンターティ ナー2011	視覚障害のある方のグループによるトークパフォーマンス (12月4日)	1 回	73 人
クリスマス ステージ 2011	障害者グループによる弾き語りとダンスの合同発表会 (12月17日)	1 回	166 人
合 計 (前年度)			3,749 人 (3,846 人)

イ 交流事業

障害の有無に関わらず、多くの人々が共に楽しめるイベントを、いろいろな団体
と共同企画し、幅広い文化領域にわたって開催しました。

また、1階ロビーで月1回程ラポールファクトリーを実施しました。

(7) 自主・共催企画事業

プログラム	内 容	回数	参加者数
福祉レクリエーションフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、日本レクリエーション協会と共催による、障害者の文化活動を支える方々を養成するフォーラムを開催（5月14日、15日）	1回	109人
映画上映会 「光彩の奇跡」 <small>こうさい</small>	失明した人物が自らの命に向き合い続ける魂の輝きと奇跡を描く感動のドキュメンタリー映画の上映会（5月15日）	1回	81人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家による市民手作りの音楽交流フェスティバル（5月28日）	1回	240人
東日本大震災復興支援うちわ展	利用者や療育センターの通園児童などの皆さまに白紙のうちわにメッセージを書いてもらい応援うちわとしてロビーに展示し、その後気仙沼市に支援物資として提供しました（5月27日～6月27日）	1回	908人
夏休み舞台のお仕事講座	シアターの音響・照明機器に実際に触れてもらい、舞台演習がどうなされているか実際に体験してもらう講座（8月18日～20日）	1回	15人
ラポールの祭典「モバイルプラネタリウム」上映会	ラポールの祭典内で、簡易型プラネタリウムの投影（9月4日）	1回	151人
字幕付き映画上映会「武士の家計簿」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会（10月1日）	1回	208人
ママさんコーラスワークショップ発表会	春から半年間実施したママさんコーラスワークショップの発表会（11月6日）	1回	177人
ゲームで遊ぼう	神奈川県アミューズメント施設事業者協会の協力によるゲーム機の無料開放（11月23日）	1回	713人
「障害者週間」国際親善交流特別演奏会	日本音楽文化交流協会と共催し、障害者を無料招待したクラシックコンサート（12月5日）	1回	307人
耳の日イベント字幕付き映画上映会「奇跡」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会（3月3日）	1回	124人

字幕付きミュージカル「赤毛のアン」&「ウエストサイドストーリー」	NPO 法人とタイアップした本格的なミュージカル。聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう日本語字幕を付けて実施（3月31日）	1回	292人
合計（前年度）		3,018人（3,215人）	



横浜ラポール芸術市場「ジョイフルフェスタ」



字幕付きミュージカル「赤毛のアン」

(イ) ラポールファクトリー

1階ロビーを使って、毎月1回、第2土曜日の昼休みに音楽会などを開催しました。（4月、8月、9月、1月を除く）

プログラム	回数	参加者数
ようこそ紙芝居の世界へ<手話通訳付き>	8回	45人
ロビーマジックショー		58人
ハーブで奏でるさわやかコンサート		67人
現代と古典のマジック		55人
手づくり紙芝居		43人
みんなで聴こう！クリスマスコンサート		70人
ギター弾き語り		49人
トーンチャイムの音色を楽しもう		58人

ウ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動を支援するために、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。また、陶芸等のボランティア研修や文化登録ボランティアのステップアップ講座を実施しました。

新規の取り組みとして、経済観光局雇用労働課の協力を得て、横浜マイスターによるステンドグラス教室を実施しました。

(フ) 教室等

プログラム	内容	回数	参加者数
-------	----	----	------

失語症の方のための情報交換会	リハセンターの言語聴覚士と連携、ST訓練を経た失語症者に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12回	60人
キッチンスタジオ in ラポール	リハセンターの作業療法士、ソーシャルワーカーと連携、片麻痺の方を対象にした料理教室	7回	61人
バリアフリークッキング in フォーラム	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に一人で参加が可能な男性を対象にした料理教室（10月1日・15日）	2回	19人
バリアフリークッキング in あざみ野フォーラム	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に男性が料理をする料理教室（12月3日・17日）	2回	18人
元気のでるランチ	食生活に興味を持ち、栄養や料理についての知識を深めるとともに、簡単に健康的なメニューに取り組んだ料理教室	3回	34人
サンデークッキング	知的障害のある20代、30代成人を主に対象とし、余暇活動の一環として、家庭でも簡単にできるメニューに取り組んだ料理教室	3回	33人
アートサロン	片麻痺等の中途障害者を対象に、毎回季節感のあるテーマを設定、絵画を中心とした教室。昨年度より午前、午後の2クラスに増設	18回	150人
ものづくり広場	10～30歳代の知的障害者を主に対象とした、絵画や工作を中心とした教室	9回	96人
造形ワークショップ	重度の身体障害者を主に対象とした絵画や造形作品を制作する教室	9回	44人
コーラス・ワークショップ	障害のあるお子さんとその保護者たちのためのコーラス教室	5回	102人
ステンドグラス教室	経済観光局雇用労働課の協力による、横浜マイスターによるステンドグラス教室	9回	113人
夏休み親と子の工作教室	神奈川土建一般労働組合横浜支部の協力による、親子で楽しめる木工やタイル細工教室	1回	82人
陶芸1日体験教室（初心・初級・親子）	片麻痺、視聴覚障害、障害児等年齢や障害の特性に配慮した陶芸体験会（震災延期分も含む）	16回	204人
合 計（前年度）		1016人（705人）	

(イ) 研修会

プログラム	内 容	回数	参加者数
-------	-----	----	------

陶芸ボランティア 研修	陶芸ボランティアのための釉かけの研修会 と失語症の方に対する支援の講義を実施	2回	22人
文化登録ボランティア アステップアップ講座	各障害とその介助法について	1回	10人
合 計 (前年度)		32人 (47人)	

(ウ) 陶芸窯焼成

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	陶芸の個人利用者を対象に、有料による素 焼きと本焼き	6回	324人
陶芸窯焼成大物	20 cm以上の大物作品の焼成	3回	13人
合 計 (前年度)		337人・0団体 (297人・0団体)	

(2) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、多様なおもちゃ遊びができる場の提供や障害児及び障害児関連団体等を対象にしたおもちゃ等の貸出を行いました。23年度のおもちゃ図書館利用者数は7,620人（昨年度8,735人）でした。

また、主に春休み・夏休み期間のおもちゃ展や工作教室、おもちゃ病院など楽しく参加できる行事を実施し、延べ2,780人（昨年度2,273人）が参加しました。

更に、館外での事業として「出張おもちゃ図書館」等を実施し、地域活動を支援しました。

ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	23年度貸出数	(昨年度)
個人（障害児・保護者等）	3,236点 1,409人	(3,178点) (1,461人)
団体（療育機関・訓練会等）	2,522点 487団体	(2,451点) (424団体)

イ 研修会の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
地域指導者研修 会	おもちゃ図書館にある参考図書の著者で、 発達障害関連書を多数出版している丹野 節子さんの講演。協力：横浜市障害児者 を守る会、いずみ会館（3月24日）	1回	78人

ウ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
-------	-----	----	------

おもちゃ病院	個人や団体・横浜ラポールの壊れたおもちゃ計 419 点をワイワイおもちゃドクターズ倶楽部のボランティアが修理	12 回	個人 104 人 団体 20 件
みんなのお楽しみ会	第 2 土曜日に実施する、お誕生月の児童のお祝いのための手遊びやマジック	9 回	221 人
工作ひろば	第 2 土曜日に実施する、年齢問わず参加できる簡単な工作の会	8 回	298 人
わくわくボックス	「縁日ごっこ」「クリスマス」などをテーマに、ボランティアや演奏グループが中心になって開催する遊びの会 (7 月 9 日、12 月 10 日)	2 回	141 人
バリアフリー おもちゃ&絵本展	ラポールのおもちゃのベスト 100 点の展示、障害をテーマにした絵本の展示 (8 月 24 日～8 月 28 日)	1 回	359 人
おもちゃ&絵本展 ワークショップ	小さな木のおもちゃ作り、折り紙教室、デザートクッキング (8 月 24 日～28 日)	8 回	72 人
春のおもちゃ展ワ ークショップ	風を楽しむ工作教室、デザートクッキング (3 月 23 日～25 日)	5 回	68 人
四季の工作	貝殻や木の実などの自然素材を利用した工作教室 (8 月 6 日・11 月 5 日)	2 回	127 人
秋のおもちゃ展～ 秋の夜長を楽しむ おもちゃと布絵本 特集～	天井に映像が映るおもちゃとボランティア制作の布おもちゃの展示 (11 月 16 日～11 月 20 日)	1 回	303 人
秋のゲーム&パズ ル大会	一人でも複数でも楽しめるゲームやパズルで遊ぶイベント (11 月 19 日)	1 回	30 人
春のおもちゃ展 ～光や風と遊ぼう ～	春休みに様々な障害のある児童に楽しんでもらうため、光や風をテーマにしたおもちゃ、きり絵の展示と遊びのスペース (3 月 21 日～25 日)	1 回	359 人
春のおもちゃ展ワ ークショップ	風を楽しむ工作教室、デザートクッキング (3 月 23 日～25 日)	5 回	68 人
ラポールの祭典 「おもちゃの広場」	神奈川県内のおもちゃ図書館ボランティアによる遊びや工作教室 (9 月 日)	1 回	600 人
合 計 (前年度)		2,750 人 (2,273 人)	



「おもちゃ病院」

(3) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末を通して、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。また、情報バリアフリーを進めるための講座などを行いました。

ア 横浜ラポールホームページ運営

(ア) ホームページの運営

横浜ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、横浜ラポール内の全施設の予約状況及び広報誌(ラポラポ)が閲覧できるページについては、月2回の更新を実施しました。

ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/shisetsu/rapport/>

(イ) 運営状況

年間総アクセス数： 799,535 件（前年度：887,930 件）

イ 情報バリアフリー支援講座等

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象とした、パソコンの購入・使用方法等に関する相談会	4 回	338 人
パソコン体験コーナー	初心者を対象とした、インターネットの利用体験会	3 回	1 人
夏休み パソコンであそぼ	中高校生を対象とした、パソコンを使ったタンブラーやうちわ作成などの講習会	2 回	15 人
合 計（前年度）			354 人（361 人）

(4) 地域支援

地域における障害児・者の文化活動を推進するために、市内の施設などと共催事業等を実施しました。

プログラム	内 容	回数	参加者数
-------	-----	----	------

バリアフリークッキング in フォーラム 〈再掲〉	「男女共同参画センター横浜」と「フォーラムあざみ野」との共催で、主に片まひの男性が対象の料理教室（10月1日・15日）	2回	19人
バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野〈再掲〉	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に男性対象の料理教室（12月3日・17日）	2回	18人
あおばおもちゃの広場	青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃの貸出や情報提供（通年）	60回	2,300人
海の公園 移動おもちゃ図書館	金沢区の海の公園ふれあいセンターにて、横浜ラポールのおもちゃ・活動紹介の展示（5月14日～16日）	1回	468人
ヨッテク 移動おもちゃ図書館・	ヨコハマヒューマン&テクノランド2011にて、ラポールのおもちゃ・地域のおもちゃ図書館の活動を紹介（7月22日～23日）	1回	—
ヨッテク 「横浜マイスターの技能体験」	経済観光局雇用労働課の協力を得て、ヨコハマヒューマン&テクノランド2011内で実施した横浜マイスターの体験教室	1回	140人
出張パソコン相談会	ヨコハマヒューマン&テクノランド2011内で、パソコン相談会やパソコンに関する福祉機器の展示、缶バッチ作りを実施	1回	280人
合 計（前年度）		3,225人（3,155人）	

(5) 季節行事

22年度より、利用者の方々に親しまれる「横浜ラポール」として利用者の方々にも参加していただいた季節行事を開催しました。

7月の七夕では、利用者の方々から短冊に願い事を書いていただき、地元の方よりいただいた笹竹に飾りました。その他には5月に「こどもの日」にこいのぼりの塗り絵、7月に「七夕」、10月に「ハロウィン」の飾り、12月に「クリスマス」の塗り絵、2月に「節分」の飾り、3月に「ひなまつり」の塗り絵を行い、多くの皆様に参加していただきました。



「七夕飾り」



「ハロウィン」



「クリスマス」

4 聴覚障害者情報提供施設事業

国の定める「聴覚障害者情報提供施設」として、関係機関・団体や他都市の聴覚障害者情報提供施設と連携し、「手話・筆記通訳派遣」「聴覚障害者相談」「ビデオライブラリー」「視聴覚機器の貸出」他の横浜市受託事業を実施しました。

23年度は、国の要約筆記者制度改正方針を受け、今後の横浜市筆記通訳者養成・認定・派遣制度の改正内容について関係者間で協議を行いました。また、「聞こえの相談事業（横浜市新規事業）」を横浜市総合リハビリテーションセンターとの連携により開始しました。

(1) 手話・筆記通訳派遣事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者が、社会生活上必要とする場合に手話または筆記通訳者を派遣し、意思の疎通を支援することにより聴覚障害者等の福祉の増進を図ることを目的として、事業を実施しました。

ア 23年度事業の概況

- (ア) 横浜市非常勤手話通訳者 25 人、横浜市登録手話通訳者 118 人、横浜市登録筆記通訳者 106 人、手話・筆記通訳派遣業務担当職員 7 人で、手話・筆記通訳の依頼に対応しました。
- (イ) 総派遣・紹介人数は 8,988 人（手話通訳 7,471 人、筆記通訳 1,517 人）でした。総派遣・紹介人数及び手話通訳派遣・紹介人数は過去最高でした。
- (ウ) 公的派遣のうち、救急手話通訳者派遣数は 17 人でした。紹介のうち、横浜地方裁判所からの裁判員裁判に関する通訳依頼は 3 件あり、神奈川県及び川崎市の派遣窓口と連携して対応しました。また、神奈川県警通訳センターからの事件・事故の手話通訳者派遣は 22 人でした。その他、市外での通訳依頼で、他都市派遣制度に通訳者手配をお願いした事例は 41 件でした。
- (エ) 通訳者の研修事業では、自主研修として、登録手話通訳者に対し、登録 1 年次、2 年次、3 年次、全体を対象に 4 コース（延べ 29 回）、非常勤及び中堅登録手話通訳者対象の専門研修を 6 回、登録筆記通訳者新人研修を 4 回（対象：手書き 12 人、パソコン 14 人）実施しました。また、横浜市聴覚障害者協会の行う手話通訳者養成・試験対策研修を支援（職員を講師派遣）、横浜市中途失聴・難聴者協会の行う筆記通訳者研修を支援（手書き、パソコン計 12 回）しました。
派遣研修としては、全国要約筆記問題研究集会（東京都）、全国聴覚障害者情報提供施設協議会コミュニケーション支援事業担当者研修会（京都府）、手話通訳士専門研修会（埼玉県）、市町村手話通訳者・要約筆記者派遣コーディネーター研修会（神奈川県）に担当職員等を派遣しました。
- (オ) 通訳者との会議・懇談では、非常勤手話通訳者業務調整会議を 6 回、手話通訳者事業連絡会、筆記通訳者事業連絡会を各 1 回実施しました。
- (カ) 関係機関団体との連携では、神奈川県・川崎市との派遣窓口会議を 1 回実施し、23 年度の神奈川県全域の派遣について連携を確認しました。また、23 年 3 月に厚生労働省から通知された「要約筆記者養成カリキュラム」等への対応について協

議の場を持ちました。その他、消防局に対し救急手話通訳手配、神奈川県警通訳センターに対し事件・事故通訳者手配、横浜地方裁判所に対し裁判員裁判通訳手配、に関してそれぞれ協力しました。

- (キ) 横浜市手話通訳者登録試験（手話通訳者全国統一試験）の、運営・審査等に協力しました。
- (ク) 救急手話通訳者派遣事業のシステム改善とPRに協力しました。また、国の方針を受け、横浜市筆記通訳者養成研修・認定・派遣制度のあり方等につき関係者と協議を行いました。

イ 派遣人数

(7) 手話・筆記通訳者別派遣・紹介人数

通訳者の種類		派遣人数	紹介人数	合計	
手話通訳者	非常勤手話通訳者	25人	3,280人	210人	3,490人
	登録手話通訳者	118人	3,068人	767人	3,835人
	情報提供施設職員	7人	146人	0人	146人
	小計	150人	6,494人	977人	7,471人
登録筆記通訳者		106人	1,193人	324人	1,517人
合計 (昨年度)		256人 (232)	7,687人 (7,127)	1,301人 (1,276)	8,988人 (8,403)

(イ) 内容別派遣・紹介人数

通訳内容	手話通訳者		筆記通訳者		合計	
	派遣	紹介	派遣	紹介	派遣	紹介
医療・保健に関する こと	3,663	9	57	0	3,720	9
	3,672		57		3,729	
司法に関する こと	76	47	0	12	76	59
	123		12		135	
教育・保育に関する こと	998	13	36	0	1,034	13
	1,011		36		1,047	
労働・雇用に関する こと	217	475	38	117	255	592
	692		155		847	
社会生活に関する こと	810	15	30	0	840	15
	825		30		855	
自己啓発に関する こと	112	0	40	0	152	0
	112		40		152	
福祉推進に関する こと	611	418	992	195	1,603	613
	1,029		1,187		2,216	
聴覚障害者相談の 通訳	7	0	0	0	7	0
	0		0		7	
合計 (前年度)	6,494 (5,900)	977 (972)	1,193 (1,227)	324 (304)	7,687 (7,127)	1,301 (1,276)
	7,471		1,517		8,988	

	(6,872)	(1,531)	(8,403)
--	---------	---------	---------

〈うち公的派遣人数〉

	手話通訳関係		筆記通訳関係	
	派遣数	%	派遣数	%
医療・保健に関すること	3,663	56.4%	57	4.7%
司法に関すること	76	1.1%	0	0
教育・保育に関すること	998	15.3%	36	3%
労働・雇用に関すること	217	3.3%	38	3.1%
社会生活に関すること	810	12.4%	30	2.5%
自己啓発に関すること	112	1.7%	40	3.3%
福祉推進に関すること	611	9.4%	992	83.1%
聴覚障害者相談の通訳	7	0.1%	0	0
合 計	6,494	100%	1,193	100%

〈公的派遣のうち、救急手話通訳派遣事業での対応人数〉計

通訳依頼時間	実績（前年度）	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	7人(3)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	11人(4)	対応通訳者：32人
合 計	18人(7)	

〈紹介のうち、横浜地方裁判所からの裁判員裁判通訳依頼への対応人数〉

回	予定日数	対象	通訳種別	予定人数（実績数）	備考
1	5日間	1人	筆記	手書き 2(2) PC28(28)	聴覚障害者が裁判員に選任
2	3日間	1人	筆記	手書き 2(2) PC16(0)	選任手続きのみ
3	3日間	1人	筆記	手書き 2(2) PC16(0)	〃

※通訳数は、横浜・県・川崎の合計数

〈紹介のうち、神奈川県警通訳センターからの事件・事故通訳依頼への対応人数〉

通訳依頼時間	実績（前年度）	備 考
派遣窓口時間内(9:30-17:00)	15人(16)	
派遣窓口時間外(17:00-9:30)	7人(0)	対応通訳者：23人
合 計	22人(16)	

(ウ) 市外での通訳依頼への対応状況

通訳者の派遣を依頼した事業所	件数
埼玉聴覚障害者情報センター	11
千葉聴覚障害者センター	9
神奈川県聴覚障害者福祉センター	4
とちぎ視聴覚障害者情報センター	2
東京手話通訳等派遣センター	2
草加市社会福祉協議会	2
上田市役所	1
山梨県立聴覚障害者情報センター	1
長崎県ろうあ協会	1
社団法人福島県聴覚障害者協会	1

群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ	1
秋田県身体障害者福祉協会	1
長野市聴覚障害者センター	1
新潟県庁	1
岡山県聴覚障害者センター	1
茨城県聴覚障害者福祉センターやすらぎ	1
沖縄県身体障害者福祉協会	1
合 計 (前年度)	41(39)
依頼事業所数 (前年度)	17(9)

(エ) キャンセル・変更等処理件数

内 容	件数	説 明
通訳者が手配できなかった	13	前日窓口終了後や当日の依頼で派遣不可能等
依頼者からのキャンセル	290	取消、日程変更、主催行事中止、自然災害等
派遣対象外	14	派遣場所が市外で、内容が市外派遣対象外等
他都市の派遣窓口を紹介	66	広域の派遣として他都市窓口との連携等
通訳者の変更	3	通訳者の事情（病気等）で変更等
日程変更	20	派遣日の変更
相談員	1	相談員が対応
合 計	407	

ウ 研修事業

(ア) 自主研修

a 登録手話通訳者1年次研修（対象者：16人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月16日	読みとり実技	16人	渡邊智子氏（非常勤手話通訳者）
2	6月20日	派遣事例検討	16人	職員2人
3	7月4日	聞きとり実技	16人	小島祐美氏（非常勤手話通訳者） 小島天氏（横聴協）、職員1人
4	8月1日	各場面模擬通訳Ⅰ	16人	水口純子氏（非常勤手話通訳者） 小泉和子氏（登録手話通訳者） 島野紫都氏・小平靖子氏（横聴協） 職員1人
5	9月5日	各場面模擬通訳Ⅱ	16人	森本典子氏（非常勤手話通訳者） 小泉和子氏（登録手話通訳者） 島野紫都氏・小平靖子氏（横聴協） 職員1人
6	2月20日	自己点検報告書まとめ	14人	職員2人

b 登録手話通訳者2年次研修（対象者：8人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月14日	聞きとり実技	8人	仁木尚美氏（横聴協）、職員1人
2	6月27日	読みとり実技	8人	齋藤順子氏（非常勤手話通訳者）

				伏木有貴子氏（登録手話通訳者）
3	7月25日	対人通訳事例討議	8人	職員1人
4	9月26日	事例討議・模擬通訳	8人	浪川成海氏（非常勤手話通訳者） 小泉和子氏（登録手話通訳者） 職員2人
5	10月31日	ビデオ事例検討・ 模擬通訳	8人	持田民子氏（非常勤手話通訳者） 小泉和子氏（登録手話通訳者） 職員1人

c 登録手話通訳者3年次研修（対象者：11人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月14日	聞きとり実技	11人	高柳まり子氏（非常勤手話通訳者）
2	5月30日	事例問題解決のステップ	11人	太田佳代子氏（世田谷福祉専門学校）職員1人
3	8月29日	事例検討・ロールプレイ	11人	金山ひとみ氏（非常勤手話通訳者） 小泉和子氏（登録手話通訳者） 職員1人
4	10月24日	模擬通訳・体験談	9人	小泉和子氏（登録手話通訳者） 小島天氏（横聴協）、職員1人

d 全体研修（対象者：全登録通訳者）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月21日	実技「大会向け読みとり」	77人	渡邊智子氏（非常勤手話通訳者）
2	7月2日	講義「聞きとり通訳」	90人	鈴木唯美氏（日本手話通訳士協会）
3	7月23日	手話筆記合同研修	115人	立藤加代氏（登録筆記通訳者） 職員4人
4	8月6日	講義「手話の翻訳論」	100人	市田泰弘氏（国立障害者リハビリテーションセンター学院）
5	8月27日	講義「対人援助を考える」	100人	小川智子氏（城西国際大学）
6	10月29日	実技「読みとり翻訳ワークショップ」	66人	職員2人
7	11月5日	講義「母語である日本手話で仕事をする」	73人	小野広祐氏（明晴学園）
8	11月26日	講義「新法への骨格提言と実現までの道程」	85人	藤井克徳氏（日本障害者協議会）
9	1月28日	講義「手話通訳者の健康問題」	69人	埴田和史氏（滋賀医科大学）

e 横浜市手話通訳者専門研修（対象者：非常勤25人、登録者37人）

回	実施日	内 容	参 加		講 師
			非常勤	登録者	
1	6月4日	読み取り実技（大会、講座での講演場面）	17人	16人	職員2人
2	7月11日	事例検討（医療場面）	24人	19人	職員1人
3	9月12日	実技研修（司法場面）	23人	12人	職員1人

4	10月17日	相談場面の事例研修(相談員付きの通訳のあり方)	20人	19人	職員3人(相談員)
5	1月16日	意見交換(公判の流れを知る)	21人		非常勤手話通訳者(研修担当)、職員1人
6	1月16日	医療研修		33人	職員2人

f 横聴協支援事業(手話通訳者全国統一試験対策)

回	実施日	内 容	参加	支援内容
1	8月10日	試験概要説明	15人	職員1人を講師派遣
2	10月26日	手話要約試験評価	14人	〃
3	11月9日	手話場面試験評価	15人	〃

(イ) 派遣研修

名 称	期日	場所	派遣者
全国要約筆記問題研究集会	6月18日～19日	東京都	職員1人
全聴情協コミュニケーション支援事業担当者研修会	7月12日～14日	京都府	職員2人
手話通訳士専門研修会	3月7日～9日	埼玉県	非常勤2人
市町村手話通訳者・要約筆記者派遣コーディネーター研修会	11月22日	神奈川県	職員1人

(2) 聴覚障害者相談事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者の日常生活の各種の相談に応じ、個々の実情に即した適切な処遇を図り、聴覚障害者等の福祉の向上に資することを目的として事業を実施しました。

23年度も、高齢ろう者(独居・夫婦世帯)を含めた計画的な出張相談の拡充を図りました。また、聞こえや補聴器に関する専門相談として、「聞こえの相談事業」を24年2月から新たに開始しました。情報提供施設聴覚障害者相談員とリハビリテーションセンター言語聴覚士が、連携して相談を実施しています。

ア 23年度事業の概況

- (ア) 総相談件数は730件に対応しました。ラポールへの来所相談に加えて、相談員が出張し、聴覚障害者の居住地の関係機関と連携しながら相談支援を行いました。
- (イ) 相談者の実数は182人、内聴覚障害者(個人)は164人でした。
- (ウ) 「聞こえの相談事業」の対応数は3件でした。また、同事業の事務局として、運営委員会(委員10人)を1回開催しました。
- (エ) 横浜市障害者社会参加推進センター主催の講座「聞こえと補聴器」に運営協力しました。
- (オ) 東日本大震災の聴覚障害者支援のため、横浜市として、宮城県仙台市「東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部」へ相談員1人を1週間派遣しました。
- (カ) 聴覚障害者精神保健研究集会(年1回)、関東ろうあ者相談員連絡会(年6回)に参加し、相談業務の一助としました。

イ 相談の内容

(ア) 相談内容

相談内容	実件数		延べ件数	
	件数	割合	件数	割合
医療	49件	12.3%	108件	14.8%
職業	29件	7.3%	55件	7.5%
教育	3件	0.8%	3件	0.4%
住宅	28件	7.0%	44件	6.0%
生活	152件	38.2%	291件	39.9%
福祉	106件	26.6%	164件	22.5%
法律	28件	7.0%	62件	8.5%
聞こえの相談	3件	0.8%	3件	0.4%
合計 (前年度)	398件 (418)	100%	730件 (768)	100%

(イ) 相談の場所

面接場所		23年度	22年度	21年度
ラポール		577回	602回	786回
出張	訪問	153回	166回	151回
	同行	95回	90回	78回
	同席	17回	29回	35回
	ケース会議	40回	45回	23回
合計		730回	768回	937回

ウ 相談者の状況

(ア) 障害別件数

種類		実人数		
聴覚障害者（個人）	ろう者	147人	89.6%	80.8%
	難聴者	17人	10.4%	9.3%
	小計	164人	100%	
健聴者（個人）		14人		7.7%
団体		4人		2.2%
合計		182人		100%

(イ)聴覚障害者（個人）の居住地域

地域名	実人数		地域名	実人数		地域名	実人数	
鶴見	15人	9.1%	旭	15人	9.1%	戸塚	7人	4.3%
神奈川	7人	4.3%	磯子	5人	3.0%	栄	7人	4.3%
西	4人	2.4%	金沢	6人	3.7%	泉	0人	0.0%
中	9人	5.5%	港北	12人	7.3%	瀬谷	10人	6.1%
南	9人	5.5%	緑	14人	8.5%	市外	5人	3.0%
港南	8人	4.9%	青葉	4人	2.4%	不明	0人	0.0%
保土ヶ谷	17人	10.4%	都筑	10人	6.1%	合計	164人	100%

(3) ビデオライブラリー事業

聴覚障害者用に字幕を挿入したビデオ及びCS 障害者専用放送統一機構「目で聴くテレビ」提供番組、通訳者研修教材ビデオの自主制作を行うとともに字幕・手話入りビデオの貸出を行いました。

ア 23 年度事業の概況

- (ア) ライブラリーの制作では、字幕付き映画会等の事業において字幕を 3 作品制作しました。字幕制作については字幕サークル「まじっく」の協力を得ました。CS 障害者専用放送統一機構「目で聴くテレビ」番組制作 2 作品、事業啓発、通訳者用貸出教材ビデオ等 40 作品、合計 43 作品を制作しました。
- (イ) ビデオライブラリーの貸出は、179 件 389 本の実績でした。
- (ウ) 全国聴覚障害者情報提供施設協議会主催の担当職員研修会（11 月に愛媛県で開催）に参加し、業務の一助としました。

イ ライブラリーの制作

種 類	作 品 名 等	備 考
字幕付き映画上映会等の字幕制作	「武士の家計簿」（映画会） 「奇跡」（映画会） 「赤毛のアン・ウエストサイドストーリー」（音楽劇）	ラポール文化企画事業との連携（字幕制作と投影）
自主制作	「救急手話通訳者派遣事業」	消防局との連携
	「東日本大震災東北への応援メッセージ」 「つつうらうら～横浜散歩～野毛山動物園」	CS 障害者専用放送統一機構番組提供制作
	通訳者研修講演 手話通訳者研修教材	手話・筆記通訳者派遣事業との連携

(4) 視聴覚機器貸出事業

聴覚障害者団体や聴覚障害者を支援するサークル等に視聴覚機器の貸し出しを行いました。総貸出 件数は 936 件でした。機器点検は年 12 回（毎月第 2 火曜日）実施しました。

内 訳	在庫数	件 数
○ H P	3	31
ス ク リ ー ン	7	119
磁 気 ル ー プ	1	56
液 晶 プ ロ ジ ェ ク タ ー	2	132
テ ー プ レ コ ー ダ ー	3	69
ビ デ オ カ メ ラ	2	41
○ H C + プ ロ ジ ェ ク タ ー	2	56
VHS+DVD ブ ル ー レ イ デ ィ ス ク レ コ ー ダ ー	1	27
パ ソ コ ン 文 字 通 訳 用 機 器	2	202
パ ソ コ ン 文 字 通 訳 用 機 器 個 人 用	2	203
合 計 (前 年 度)		936(959)

(5) その他の事業

ア 広報事業

関係機関・団体および通訳者に対して聴覚障害者情報提供施設事業を紹介するため、機関紙「横浜ウエーブ」を年6回偶数月に各600部発行し、ラポールwebにも掲載しました。

イ 頸肩腕特殊健康診断

非常勤手話通訳者、登録通訳者（月5件以上）及び情報提供施設職員については7月、1月に直接検診を実施。登録手話・筆記通訳者全員には年1回問診票による予備検診を実施し189人が受診しました。予備検診の結果、直接検診が必要な通訳者は7月の直接検診を受診しました。

〈直接検診結果〉

種 類	回	A	B1	B2	B3	C	計	判定基準
非常勤手話 通訳者	1	20	5	0	0	0	25	A:異常ありません B1:疲労回復に心がけましょう B2:働き方の見直しと改善を要します B3:治療と業務軽減を要します C:休業治療を要します (日本産業衛生学会頸肩腕障害研究会)
	2	21	4	0	0	0	25	
登録手話・ 筆記通訳者	1	38	13	0	0	1	52	
	2	29	0	0	0	0	29	
情報提供 施設職員	1	6	5	0	0	0	11	
	2	10	1	0	0	0	11	

ウ 関係機関団体との連携

聴覚障害者団体、通訳者団体、関係機関と年28回、通訳者派遣事業・相談事業や聴覚障害者福祉制度等に関する協議を行いました。

23年度は、特に、要約筆記者制度改正の国方針を受け、関係団体（横浜市障害者社会参加推進センター、横浜市中途失聴・難聴者協会、横浜市筆記通訳者協会）と養成・認定・派遣制度のあり方について協議し、横浜市に制度改正案を提案しました。

エ 全国聴覚障害者情報提供施設協議会

第7回聴覚障害者情報提供施設総会及び大会（6月に和歌山県で開催）及び、関東ブロック会議（8月に神奈川県で開催）に参加しました。

オ 視察・実習対応

国立リハビリテーションセンター学院、市立樽町中学校、木更津ろうあ協会、世田谷福祉専門学校、鶴見総合高校、国際協力機構東京国際センター、市立霧が丘中学校、市立ろう特別支援学校、三重県聴覚障害者協会、他に対応しました。

カ 行事等への出席

横浜市聴覚障害者の集い、神奈川県ろうあ者大会、横浜いのちの電話評議員会、講座「聞こえと補聴器」、聞こえの相談事業運営委員会、他。

5 広報事業

横浜ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

(1) 横浜ラポール広報誌・催し物案内の発行

月間催し物案内「ラポラポ」を発行し、市・区役所、障害児・者施設をはじめ、関係機関約 500 か所で配布しました。

(2) 事業概要（年報）の発行

(3) 視察・見学者への施設案内

件数：70 件（前年度 56 件） 人数：1,216 人（前年度 939 人）

(4) インターネットによる広報

ホームページを作成し、広く施設情報を紹介しました。（再掲）

6 その他

各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めるとともに、職員の業務に対する意識の向上に努めました。

(1) 利用者満足度調査

施設運営上の課題等を把握し、利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を昨年度に引き続き実施しました。

ア 実施方法 アンケート方式（無記名）

イ 実施期間 平成 24 年 2 月 26 日～3 月 18 日

ウ 回収数 316 通

エ 結果

1 利用者の方に障害はありますか？

① ある	196 人
② ない	108 人
③ 無回答	12 人

2 利用者の方の年齢はいくつですか？

① 10 代以下	14 人
② 20 代	21 人
③ 30 代	38 人

④ 40代	57人
⑤ 50代	62人
⑥ 60代	75人
⑦ 70代以上	50人
⑧ 無回答	10人

質問1 ラポール職員の対応についてうかがいます。

① とても満足	160人
② やや満足	75人
③ ふつう	62人
④ やや不満	11人
⑤ とても不満	1人
⑥ 無回答	7人

質問2 ラポール主催のスポーツ事業（教室・大会など）に参加したことがありますか？

① ある	133人
② ない	175人
③ 無回答	8人

質問2-2 「はい」の方についてうかがいます。参加されていかがでしたか。

① とても満足	72人
② やや満足	34人
③ ふつう	29人
④ やや不満	2人
⑤ とても不満	1人
⑥ 無回答	178人

質問3-1 ラポール主催の文化事業（シアター事業・教室など）に参加したことがありますか？

① ある	95人
② ない	184人
③ 無回答	37人

質問3-2 「はい」の方についてうかがいます。参加されていかがでしたか。

① とても満足	44人
② やや満足	32人
③ ふつう	20人

- ④ やや不満 0 人
- ⑤ とても不満 1 人
- ⑥ 無回答 219 人

質問4 ラポール内の掃除についてうかがいます。

- ① とても満足 134 人
- ② やや満足 73 人
- ③ ふつう 67 人
- ④ やや不満 5 人
- ⑤ とても不満 1 人
- ⑥ 無回答 36 人

質問5 ラポールの空調（暖房・冷房・ほこりなど）についてうかがいます。

- ① とても満足 97 人
- ② やや満足 74 人
- ③ ふつう 89 人
- ④ やや不満 14 人
- ⑤ とても不満 0 人
- ⑥ 無回答 37 人

(2) 職員研修

職員を対象に研修を実施しました。

研 修 名	回数	参加者数
個人情報取扱い研修会	15 回	78 人
救急救命研修会 (7 月 25 日午前・午後)	2 回	55 人
感染症対策研修会 (11 月 22 日、11 月 24 日)	2 回	47 人
セクシャルハラスメント研修会 (12 月 20 日午前・午後)	2 回	53 人
人権啓発研修会 (1 月 30 日午前・午後)	2 回	40 人
通報訓練	25 回	48 人
救助訓練	18 回	37 人

(3) 防災対策

ア 自衛消防組織の編成及び任務

自衛消防隊長 副隊長 (館長) — (副館長)	通報連絡班長：消防機関への連絡、館内放送 (管理・文化事業課長)
	初期消火班長：消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (スポーツ事業課長：振興担当)
	避難誘導① 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：指導担当)
	避難誘導② 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：人材担当)
	避難誘導③ 班長：館内利用者の避難誘導 (聴覚障害支援課長)

イ 消防訓練の実施状況

実施日	内容
5月17日	横浜ラポールの地震発生を想定した防災訓練
10月24日	横浜市総合リハビリテーションセンターの火災を地震後の火災を想定したリハビリテーションセンター・横浜ラポール・保健医療センター合同の防災訓練
11月1日	横浜ラポールの地震を想定したの防災訓練

(4) 運営委員会の開催

横浜ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運営委員会を開催しました。

開催状況 年2回(11月24日・3月30日)

(5) 施設の利用状況

横浜ラポールでは、障害者を優先的に施設の貸出を行いました。

ア 利用区分による利用状況

	利用者数	前年度
個人利用数	175,956人 (100.0%)	186,232人
障害者	126,609人 (72.0%)	133,322人
介護人等	32,779人 (18.6%)	33,419人
一般	16,568人 (9.4%)	19,491人

団体利用数	258,917人 (7,827団体)	(100.0%)	237,299人 (7,961団体)
障害者	91,738人	(35.4%)	84,935人
介護人等	44,379人	(17.2%)	40,466人
一般	122,800人	(47.4%)	111,898人
利用者数 合計	434,873人(1日平均 1,256.9人)		423,531人

イ 障害別による利用状況（個人利用の内訳）

内 訳	利 用 者 数		前 年 度
肢体不自由	80,570人	(63.6%)	86,974人
知的障害	23,152人	(18.3%)	23,337人
精神障害	6,110人	(4.8%)	6,519人
視覚障害	4,712人	(3.7%)	3,958人
内部機能障害	4,108人	(3.3%)	5,140人
重複障害	5,216人	(4.1%)	4,670人
聴覚障害	2,741人	(2.2%)	2,724人
合 計	126,609人	(100.0%)	133,322人

ウ 施設別区分による利用状況

	利 用 者 数		前 年 度
ス ポ ー ツ 施 設	258,216人 (100.0%)		272,046人
プール	60,166人	(23.3%)	77,424人
メインアリーナ	69,884人	(27.1%)	66,278人
フィットネスルーム	58,971人	(22.8%)	60,313人
サブアリーナ	28,597人	(11.1%)	26,922人
屋外グラウンド	14,856人	(5.8%)	15,692人
ボウリングルーム	12,474人	(4.8%)	11,851人
地下グラウンド	8,794人	(3.4%)	8,459人
テニスコート	4,474人	(1.7%)	5,107人
文 化 施 設	176,657人 (100.0%)		151,485人

ラポールシアター	47,972 人 (27.1%)	39,361 人
大会議室	30,622 人 (17.3%)	29,095 人
ラポールボックス	27,870 人 (15.8%)	26,777 人
ラポール座	19,551 人 (11.1%)	15,672 人
和室	19,202 人 (10.9%)	15,096 人
創作工房	10,962 人 (6.2%)	9,025 人
小会議室	10,192 人 (5.8%)	7,649 人
おもちゃ図書館	10,107 人 (5.7%)	8,735 人
聴覚障害者情報提供施設 ¹⁾	179 人 (0.1%)	75 人
応接室	0 人 (0.0%)	0 人

※1)は聴覚障害者用字幕付きビデオ貸し出し人数。またプールについては、改修工事実施のため、平成23年12月19日～平成24年3月31日まで休業。